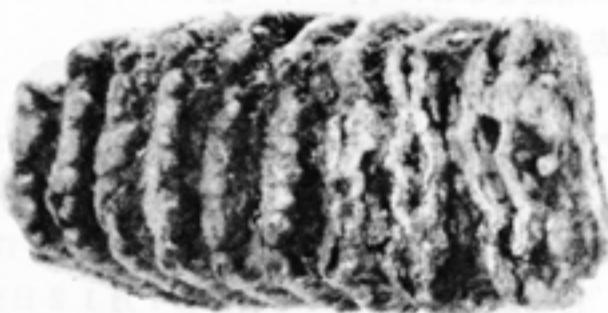


シリーズ 収蔵資料の紹介

今月号から、この紙面を利用して、ふだん展示されていない資料を少しずつ紹介したいと思いま

す。第1回は、昨年発掘された、ナウマンゾウの臼歯です。

ナウマンゾウの歯



かみあわせの面

後 ←

→ 前



内がわの面

ナウマン象 上顎右第1大臼歯（使い始め）

産地：平塚市上吉沢山田屋敷

（Is-97、C14グリッド）

発見年月日：1983年8月18日

地層：山入層中の角レキ層（約8万年前）

標本登録番号：HCM-6 Fv-47

昨年、平塚市上吉沢で総計127点に及ぶ脊椎動物化石が発見され、今までに象20点、鹿24点についてはその部位が明らかになっています。この標本はその1つです。この他、ナウマン象については第3大臼歯を伴う左右の下顎骨、それより小型の下顎骨、臼歯の咬板・歯根、頸椎、胸椎、腰骨、脛骨、肋骨などが产出しています。

これらの化石は、8万年前の火山灰の上位より产出しており、県内産のナウマン象の中では最も新しいものです。また、下顎骨を含めて多量の骨化石が产出していること、臼歯の大きさや骨の部位などから、象3頭分、鹿2頭分にあたることなどの点で、極めて重要な脊椎動物化石といえます。これらの標本を生かして、7月20日から夏期特別展「よみがえったナウマン象展」が行われます。

ナウマンゾウの歯や骨は、ことしの夏

「よみがえったナウマン象展」で公開されます。

5月の行事

1	火	
2	水	
3	木	(休館日)
4	金	
5	土	(休館日)
6	日	プラネタリウム
7	月	(休館日)
8	火	
9	水	
10	木	デッサン教室
11	金	デッサン教室
12	土	プラネタリウム 土曜観察会、石仏を調べる会
13	日	プラネタリウム 自然観察会
14	月	(休館日)
15	火	
16	水	体験学習「土器をつくろう」
17	木	
18	金	
19	土	プラネタリウム 古文書講読会
20	日	プラネタリウム
21	月	(休館日)
22	火	みんなで調べよう
23	水	
24	木	
25	金	星を見る会
26	土	プラネタリウム 土曜観察会、石仏を調べる会
27	日	プラネタリウム 地層観察会、みんなで調べよう
28	月	(休館日)
29	火	
30	水	
31	木	(休館日)

★☆行事案内☆★

●星を見る会「春の星座と惑星」

春の星座と、土星・火星を観察します。

日時 5月25日(金) 18~20時

場所 博物館科学教室

参加自由。当日博物館1階の科学教室に直接おいで下さい。

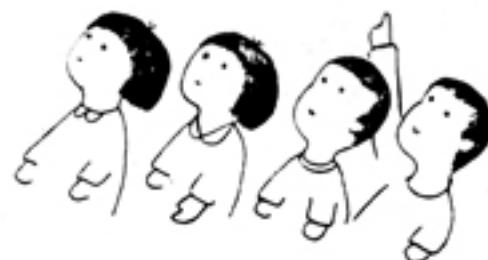
●プラネタリウム5月の投影テーマ 「火星が近づく」

今月は2年に1度の火星接近の月です。地球との距離は8千万km前後になっています。かつては人々の興味(好奇?)を一身に集めた時代のある火星も、最近はブラックホールや地球外生命にその地位を奪われて、マニア的イメージの中に置き去りにされた感じがあります。

観望の好機が来ている今月、火星について、もういちど見直してみましょう。(6月3日まで)

●プラネタリウムの幼稚園向け投影について

博物館では、6月19日から7月12日までの金曜日を除く平日に、幼稚園団体向けのプラネタリウム投影を行います。現在観覧予約を受け付け中です。詳しいことは博物館管理係まで、お問い合わせ下さい。



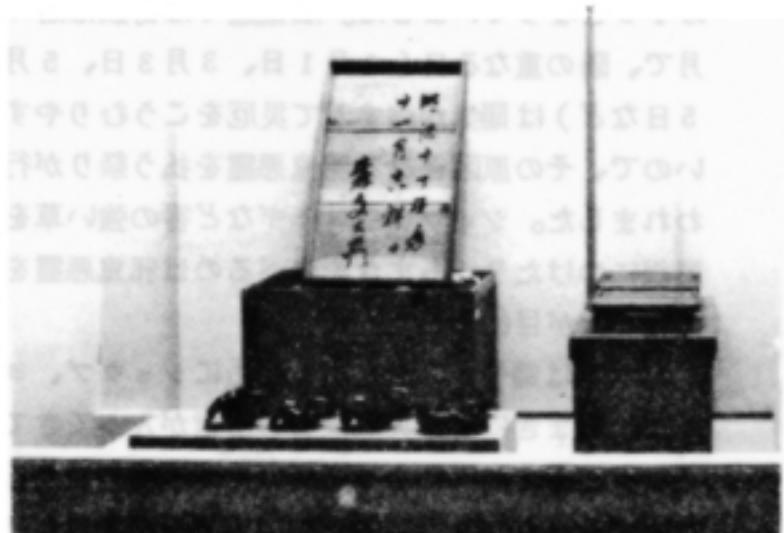
新しい博物館協議会委員

藤田 経世 神奈川県立博物館協議会委員
井出 栄二 元静岡大助教授
山本 健一 日大教授
見上 敬三 横浜国大教授
藤村富士太郎 元会社役員
熊沢 八郎 市立太洋中学校長

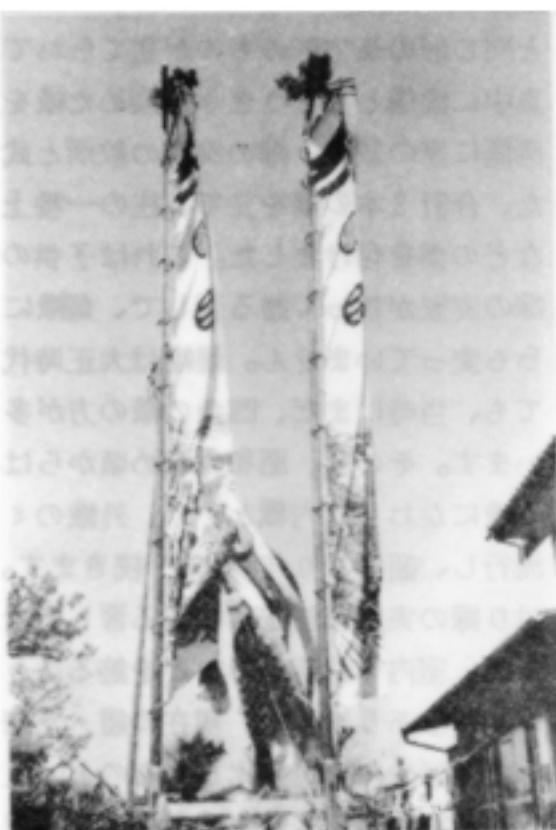
新しい博物館協議会委員さんが左記のとおり決まりました。博物館の運営に貴重なご意見をいただく方がたです。任期は、昭和59年5月1日から、61年4月30日まで。どうぞよろしくお願ひいたします。

全館くんじょうのため、6月5日～
15日の期間は休館します。

博物館は6月5日(火)～15日(金)の間、
全館くんじょうのため休館いたします。くんじょ
うというのは、大切な資料を守るために、ガスを
入れて館内の虫や菌を殺す作業です。危険なガス
なので、期間中の立ち入りはできません。ご注意
下さい。



☆5月の寄贈品コーナー 「紀年銘民具」
(年号が記されている民具) より



今月の「はくぶつかん」いかがでしたか？紙面
をより充実させるため、皆さんのご意見ご感想を
お待ちしています。

端午の節供の様子（豊田小嶺）
(次ページ参照)

平塚の年中行事

5 端午の節供

新緑の季節を迎え、青空を爽快に泳ぐ鯉幟の姿は、実にすがすがしいものです。今月は鯉幟にちなみ、端午の節供を紹介しましょう。

端午の節供は、今では鯉幟をあげたり、家の中に鎧(よろい)、兜(かぶと)の飾りを並べ、祝いの宴を開く程度となっていますが、平塚では近年まで、屋根にショウブとヨモギを束ねたものを3か所とか5か所にさし、柏餅をつくり、夜には菖蒲湯といつて風呂に菖蒲(しょうぶ)を浮かべて入り、さらに初節供の家では大きな扇をつくって扇あげもしました。ショウブやヨモギを屋根にさしたり、菖蒲湯をたてたり、扇あげをしたことは、少し年配の方なら経験があることだと思います。

鯉幟を端午の節供にあげるようになったのは、実はそんなに古いくではなく、平塚ではだいたい大正時代頃から流行し始めたといわれています。ただ、幟を立てる事はもっと前から行われ、鯉幟がはやり始めるまでは、神社の祭りに立てる幟と同じ形の長方形のものが立てられていました。真中に鍾馗(しょうき)を染めた幟を立て、その両側に家の紋所、嫁の実家の紋所と武者絵を染めた、合計3本の幟を立て、柱の一番上には青い櫻などの葉を付けました。これは子供の初節供に、嫁の実家が祝って贈る習いで、鯉幟にかわってからも変わっていません。鯉幟は大正時代からといつても、当時はまだ、四角の幟の方が多かったと思います。その後、昭和の初め頃からは、外に立てる幟にかわって内幟といい、外幟のミニチュアが流行し、昭和30年頃まで続きます。内幟もやはり嫁の実家が初節供に贈る習となっていましたが、室内へ武者人形などを飾ることは内幟流行以前からありました。現在の鎧・兜飾りは、こうした人形や内幟が変化したものといえます。

鯉幟・鎧兜・外幟・武者人形は男児の成長を祈り、祝うのが目的となっていますが、これは室町

時代頃に、武士が端午の節供のショウブを尚武にかけて発案したものとのようで、鯉幟は吹き流しからうまれてきたものです。

平塚周辺の端午の節供で、もっとも大きな特色は、かつては5月5日でなく、6月21日に行われたということと、初節供の家では大扇をつくって掲げたことです。6月21日というのは、もとの国府祭(こうのまち)の日(現在は5月5日)で、この日に節供をしたという所は市内各地にあります。国府祭は江戸時代には端午祭ともいわれ、旧暦の5月5日に行われていました。6月21日は、明治5年の改暦(太陽暦)以後のある時点で、旧暦5月5日を新暦になおした日付けと考えられます。

端午の節供といういい方は、本来はこれが5月初めの午(うま)の日の節供ということで、日本では中国の影響を早く受けた行事です。中国でも端午とはいながら、5月5日に行われ、五節供の1つとなっていました。陰陽道では奇数は陽の月で、陽の重なる日(1月1日、3月3日、5月5日など)は陽気が強すぎて災厄をこうむりやすいので、その原因となる邪鬼悪霊を払う祭りが行われました。ショウブやヨモギなど香の強い草を屋根につけたり、ちまきを食べるのは邪鬼悪霊を払うことが目的でした。

日本へは端午という名称とともにショウブ、ヨモギ、ちまきによる災厄除去の俗信が入ってきて、これと田植え前にあたって田の神=農耕神を祭るためのショウブなどが結びついて端午の節供が行われるようになったと考えられています。この時の扇あげは、神奈川県、千葉県などの南関東から東海地方で盛んで、新潟県、長野県、四国でも一部で行われています。(学芸員 小川直之)

(前ページ写真参照)